

外国語－４（第２学年） 日本の文化についてALTに話して説明する事例
 【学習活動の概要】

1 単元名 「Lesson 4 Halloween」

2 単元の目標

- ハロウィンと日本の祭りとを比較しながら，ALTに口頭で説明する。
- ハロウィンに関する英文を聞いたり，読んだりして要点を理解する。
- ペアやグループ活動において間違いを恐れず話す。
- look, sound を用いた文の意味・用法を理解する。

3 評価規準

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ペアやグループ活動において間違いを恐れず自分の考えなどを話している。
- 【表現の能力】
- ・ハロウィンや日本の祭りについて口頭で説明することができる。
- 【理解の能力】
- ・ハロウィンに関する英文を聞いて，要点を適切に聞き取ることができる。
 - ・ハロウィンに関する英文を読んで，要点を適切に読み取ることができる。
- 【言語や文化についての知識・理解】
- ・人や物について感想を述べる look, sound を用いた文の意味・用法を理解している。

4 教材

Lesson 4では，アメリカの伝統文化であるハロウィンが題材となっている。このため，日本との文化的な相違点に注目し，生徒の意見や考えを述べる活動を設定することにより，自国や他国の文化理解にもつなげることができる。

まず，こうした活動を支えるものとして，新出表現を用いて単文レベルで正しく話したり，具体的な使用場面に応じて適切に話したりすることができる力を身に付けさせる。そして，単元のゴールでは，新出表現を実際に活用してハロウィンと日本の祭りについてALTに口頭で説明できる力を養う。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全7時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (1)	○単元の課題の確認 ・ハロウィンや日本の祭りについて，ALTに口頭で説明しよう。	・ハロウィンについて紹介する写真を用意し，興味を高める環境を整えておく。
第二次 (4) 本時	○ハロウィンについて理解する。（聞く・読む） ・jack-o'-lantern, apple bobbing など ○新出表現の意味・用法を理解するとともに，それらを用いた英文を話したり，書いたりする。 ・義務を表す表現(have to~, don't have to~) ・援助や協力を申し出たり、依頼する表現(shall, will, would) ・見て，聞いて感じたことを言う表現 (look, sound)	・ハロウィンについての理解が深まるよう，日本の祭りと比較する。 ・日常生活で使えるよう使用場면을例示する。
第三次 (2)	○新出表現の意味・用法について確認する。 ○ハロウィンや日本の祭りについてジャーナル（日記）に説明文を書き，それを基に口頭で説明する。	・ジャーナル（日記）をペアやグループで発表練習し合い，分かりやすい表現になっているか確認する。 ・ALTとのインタビューテストは後日実施する。

(2) 本時の学習（5/7時間）

目標：

- ・見て、聞いて感じたことを言う表現（look, sound）を用いて、人や物について正しく話す。
- ・アップル・ボビングについての英文を読んで要点を適切に理解する。

展開：

- ①リテリング（ALTのジャーナルを読み、内容をグループで紹介し合う）
- ②グラマーディクテーション（CDの英文を聞き、ディクテーションする）
- ③新出表現（look~, sound~の用法説明・確認）
- ④表現活動（新出表現を用いてペアで会話→会話内容の発表→英作文）
- ⑤本文内容理解

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2内容 (1) 言語活動 「イ 話すこと」(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」(ウ)「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。」を取り上げて指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

英語の基礎的・基本的な知識・技能を習得するためには、機械的に練習するだけでなく、実際に言語の働きや言語の使用場面を踏まえた自己表現活動を通して定着を図ることが大切である。

また、生徒に新出表現を使用させて自己表現活動を行わせる場合は、「自分たちの生活の中にも同じような使用場面がある。」「その表現を使えば自分の気持ちをもっと上手に伝えることができる。」「既習表現も生かすことができる。」など、それらの表現の利便性を生徒に実感させる必要があると考える。

このため、指導においては、導入・パターンプラクティス・ワークシート等を新出表現が実際に使用される場面に配慮し、できるだけ具体的な内容にするとともに、それらの新出表現を使用せざるを得ない、また、使用したくなるといった必然性のある活動を単元の最終ゴール（活動）として示すなど、単元のゴールとなる活動に向けて日々の授業をつなげていくよう工夫する必要がある。そこで次の活動において以下のような工夫を行った。

○単元の最終ゴール（活動）を常に確認

生徒自身に「本単元では、最終的にどんなことを目指せばよいのか。（どこを目指せばよいのか。）」ということを意識させ、「（この）1時間に行っている、（この）内容はゴールとなる活動にどうつながっているのか。（どんなふうに関係しているのか。）」ということを考えさせるために、常に単元の最終ゴール（活動）を確認していった。

○ALTとのジャーナルの活用

生徒は普段からALTとジャーナル（日記）を交換し、彼らとのやりとりを楽しんでいる。

生徒個人とALTとのやりとりを授業で活用して「話す」活動につなげるために、ALTから各生徒に返されたジャーナルの返事をペアでリテリングする（＝相手から聞いた内容を自分なりにまとめる→まとめた内容を他の生徒にレポートする）という活動を設定した。

この活動では、生徒は聞いた内容を自分の言葉で、他の生徒にレポートしなければならないため、聞く・まとめる・話すという一連の活動に必然性が生まれ、スムーズに展開することができた。

○ALTの活用

「ハロウィンや日本の祭りについてALTに説明しよう。」という最終の活動内容については、ハロウィンの内容理解だけではなく、地域の文化や習慣について生徒が自分なりに考え振り返る機会にもつながった。また、最終の活動を「ALTに発表する」という設定にしたことで、表現する必然性を生徒が意識し、取組への意欲向上につながった。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：②（※分類番号はP5表参照）

